

研究テーマ 『社会的・職業的自立へ向けた「志教育」の推進』

～普通科高等学校における学校教育と社会との円滑な接続を目指して～

- 1 **研究の主旨** 高等学校の普通科において、勤労観・職業観をはぐくみ、社会的・職業的自立に必要な能力等を身に付けさせるための取組の中核となる教育活動の在り方について、実証的な調査研究を実施する。
- 2 **実施期間** 平成23年4月1日から平成24年3月31日
- 3 **研究協力校** 仙台向山高等学校、古川黎明高等学校、涌谷高等学校
- 4 **研究校での取組**

	仙台向山高等学校	古川黎明高等学校	涌谷高等学校
内容	「考察力」「前進力」「実現力」の獲得に向けた「向陵プラン」の取組	総合的な学習の時間「ソフィアプラン」を通じた啓発的な体験学習	総合的な学習の時間「新桜風タイム」を通じたキャリア教育
1年	「向陵リサーチ」 仕事研究に関するグループ学習 「ウィンターセミナー」 職業人によるワークショップ	「仕事最前線レポート」 仕事を通して現代日本の課題を検証するための職場訪問	「希望職場での就業体験」 「石巻専修大での講義体験」 「職業理解ワークショップ①」 社会人によるワークショップ
2年	「アカデミックインターンシップ」 大学でのインターンシップ 「向陵セミナー」 大学の先生による講義	「大学最前線レポート」 大学での研究と実社会の問題・課題とのつながりを検証するための大学訪問	「模擬体験授業」 大学・短大・専門学校の授業体験 「職業理解ワークショップ②」 「職業理解ガイダンス」
3年	「サクセスタイム」 希望学問分野に関するグループごとの課題研究	「キャリアセミナー」 進路決定に繋げる大学生と社会人による2回のキャリアセミナー	「進路希望別の取組」 進学希望者強化勉強会 公務員・就職対策、面接指導 「ソーシャルスキルトレーニング」
成果	3年間の体系的なプログラムにより生徒の進路意識も含めたキャリア発達を促すことができた	将来、夢、人生について深く考える生徒が増え、様々な教育活動が生徒の生き方に大きな影響与えた	家庭学習時間の改善や体験活動による充実感などの効果により、良好な進路状況となった
総括	3校とも総合的な学習の時間を中心に、職業研究や多くの社会人によるワークショップにより、将来の職業を意識させながら、上級学校での学ぶ意義についても深く考えさせるような体系的な取組となっている。		

5 今後の普通科高校における充実したキャリア教育を行うために

- (1) **現状認識**
高等学校普通科でキャリア教育を進めるに当たっては、学校ごとの教育目標に沿って、どのような生徒を育てようとするのか、そのための特有の課題を認識することが必要である。
- (2) **高校3年間の体系的な取組**
個々の取組が、単なるキャリア教育の行事で終わらせることなく、教育活動全体を通じて意図的・体系的・系統的にキャリア教育に取り組むためには、全体計画や年間指導計画の作成が必要であり、特別活動や総合的な学習の時間などを中心に、計画的に取り組むことが求められる。
- (3) **推進体制の確立**
一部の教員の負担とならないよう、全教職員が共通理解の下、指導に当たるためには、推進組織を校務分掌へ位置付けるなど校内の体制整備も大事である。
- (4) **学校外の教育資源を活用した取組**
キャリア教育には、インターンシップや多くの社会人によるワークショップなど外部人材を積極的に活用した取組が効果的であり、また、進学希望の生徒は、上級学校訪問に止まることなく、大学等の研究内容まで体験できる取組が重要であり、産業界や教育関係機関、地域との連携が重要となる。
- (5) **教育委員会による支援**
 - ① 研究協力校の成果に関する情報発信 → 先導的取組の普及啓発
 - ② キャリアアドバイザーの配置 → 学校外の教育資源活用に際しての連携先との連絡調整
 - ③ 各種研修会の開催 → 進路指導及び志教育担当者を対象とした研修会の開催
 - ④ 関係事業の企画及び情報提供 → 高等学校「志教育」推進事業などの支援事業の活用